

**経験値**

「管理者」という立場になったのは、ふくろうの郷に入職してからが初めてです。職場全体をまとめるというのは、こんなにも気を遣い、悩むものなのかと、日々その難しさを感じています。

今年度に入ってから退職者がいないことは、喜ばしいことだと思っています。しかし、それが自分の取り組みの成果なのか、たまたまなのかはわかりません。職員一人ひとりが十分に満足し、安心して働ける環境になっているかと考えると、まだまだ改善すべきことがあると感じています。

ふくろうの郷は、29床の入所者様（うち2床は短期入所）への介護サービスを提供し、その対価として国の制度に基づく介護報酬や、ご利用者様・ご家族様からの利用料をいただくことで運営しています。物を売れば売れば利益が増えるという販売業とは、少し性質が異なります。

だからこそ、そこで働く人たちが介護という仕事に意味を見だし、やりがいや誇りを持てることが、とても大切なのだと思います。職員の中には、自分の思いや仕事への姿勢を言葉にすることが苦手な人もいます。そうした思いをくみ取り、時には代わって言葉にして伝えることも、管理者の役割なのかもしれません。それが、その人自身の自信や、自分は誰かの役に立っているという実感につながってくればと思っています。

私は介護職の経験がない施設長ですので、職員からの信頼も、まだ十分に得られているとは思っていません。自分自身もそうだったように、現場を経験していない人に管理されることへの不安や、話をしてもらって理解してもらえるのだろうかという思いがあるのは、当然のことだと思います。ただ、畑は違っても、職場をまとめ、最終的な責任を負い、職員が安心して仕事に取り組める環境を整えるという役割は、どの職場にも共通するものだ、前職で学んできました。いつかそんな部分も理解してもらえる日が来ればいいなと、密かに夢を抱いております（笑）。

さて、「年の功」という言葉があります。

長く生きてきた人ほど、さまざまな経験を積み、周囲への気配りや責任感を持って行動できるようになる。若い人たちにとって、そんな姿が一つのモデルになるのが理想なのかもしれません。

しかし、実際には年齢を重ねたからといって、必ずしも人として成熟するわけではないようです。周囲を思いやり、自然と人が集まる人もいれば、反対に周囲が気を遣わなければならない人もいます。

その違いは、これまでの仕事や人間関係の中で、どれだけ自分自身を成長させよう意識してきたかによるところが大きいのではないかと思います。

人は誰も、いずれ誰かのお世話になりながら人生の終わりを迎えることになるのでしょう。その時、なるべく周囲に余計な気を遣わせず、穏やかに過ごせる人間でありたいものです。もちろん、身体的なお世話が必要になることと、人としてどう振る舞うかということは別話です。そんな時に、自分がどのような人間になっているのか。それは、今までどのように生きてきたのかが表れる、一つの姿なのかもしれません。

経験というのは、ただ与えられるものではなく、自ら得ようとするもの。

同じ出来事を経験しても、そこから何かを学ぼうとする人と、ただ通り過ぎる人とは、積み重なるものが違うように思います。生きていく中では、面倒なことや、できれば関わりたいくない出来事もたくさんあります。時には距離を置いたり、自ら身を引いたりする選択が必要なこともあるでしょう。

それでも、自分が受け入れられる範囲の中で、日々学ぶ意識を持つこと。「これも一つの経験だ」と気持ち切り替えること。そんな小さな積み重ねが、自分自身を育てていく大切な要素なのではないでしょうか。

ところで、今年は私の子ども2人がそれぞれ入籍することとなり、何かと慌ただしい一年になっています。振り返れば、我が家には私の「自分育て（趣味）」のために集めた道具やアイテムがあふれています。これまで、ずいぶんいろいろな物を手に入れてきたものです。

しかし、年齢を重ねるにつれて、これから得ていくものは、なるべく「物」ではない方が良いのかもしれないと思うようになりました。

幸い、そんな考えは子どもたちにも少しは伝わっているようです。

これからは、役割を終えた物を少しずつ手放しながら、物ではない経験を積み重ねていきたいと思っています。これまで手に入れた物よりも、そこで得た経験の方が、きっと自分にとって大切な財産になっているのじゃないかな。

もっとも、我が家の片付けがいつ終わるのかは、まったく見当が付きませんが……（笑）。

施設長 米井